

西日本会社の「期末手当5. 2箇月」

「ベースアップ4, 500円・格差回答」

「年度末一時金なし」の回答に対する抗議

国労西日本本部は、安全・安心の職場と鉄道輸送を確立するために、職場で日夜懸命に奮闘している組合員・社員とその家族、グループ会社で働くすべての社員の労苦に報いるよう、期末手当6. 0箇月を掲げ、今日まで交渉を行ってきた。

西日本会社は、3月12日に ① 期末手当についての回答として年間臨給 5. 2箇月の回答、② ベースアップ一律4, 500円としたものの、C層内においても加算金で格差をつける内容となっている。さらにシニア社員と契約社員にも格差をつけた回答である。安全・安心な鉄道を守り抜いてきたのは、すべての社員であるにもかかわらず、格差をつけた回答に強く抗議する。

その他、① 深夜勤務等手当の見直し、② 災害等特別出勤手当の見直し、③ 夜間看護等手当の見直し、④ 乗務員手当の見直し、⑤ 職務手当の見直し、⑥ 通勤手当の見直し、⑦ 異動一時金の新設、⑧ 利便性の高い新たな貯蓄制度の新設、⑨ 帰省等交通費の見直し、⑩ 資格取得一時金制度の見直しの回答を行なった。

この間、コロナ禍で度重なる低額回答等により社員とその家族は生活苦で先行きも不安な状態を強いられてきた。その状況から離職者も増えていたのが実態であり、改善を求めて交渉に挑んでいるのにも関わらず、交渉の中でも「原資に限りがある」という主張を繰り返す姿勢に対しては到底納得のいくものではなく抗議するものである。

西日本会社は、あらゆる大規模開発や万博などに投資を行ない、さらには内部留保として溜め込む姿勢を繰り返している。経営状況も回復傾向にあり上方修正をしており、大幅な改善が求められていたが、西日本会社は考慮したものとは言えない低額回答等を行なった。

西日本会社は離職防止には賃上げが一番の特効薬であると認識しているにも関わらず、このような低額回答を行ない、日々業務に精励している社員は落胆でしかない。

今日の経営を支えてきたのは、安全・安心な鉄道輸送をめざし、日々、奮闘している全組合員・全社員がいて成り立っている。JR西日本会社の体力と大企業としての社会的責務を鑑みれば、到底納得のいくものではなく、低額回答に対し満身の怒りをもって断固抗議するものである。